

はだしのひろば

学校だより
加古川市立平岡小学校
校長 木舩 和幸

臨時号

令和6年度全国学力学習状況調査

本校の結果についてお知らせします

(小学校6年生を対象に実施された調査の結果です)



児童の学習状況は、よくできていた点、課題が残る点ともに、全国、加古川市の児童と同じような傾向が見られました。生活においては、ご家庭での約束を守って携帯電話やスマートフォン、コンピュータなどを利用したり、友だちを大切にし、お互いの意見を認め合いながら学校生活を送ったりしているという点が本校児童の特徴として表れていました。

国語科

全国、加古川市の傾向と同じように、情報の扱い方に関する問題がよくできていました。具体的には、情報と情報をどのようにわかりやすい図にして表せばよいか、またメモの特徴や効果について考えることができました。更に、本校児童は、オンライン交流の様子を想像し、自分の考えの伝え方の工夫を考えることができていました。「話すこと・聞くこと」において、話し合い活動の充実などが成果につながっていると言えます。一方、与えられた情報をもれなく文章に書き表したり、字数や引用などの条件に対応しながら書くことには課題があり、全国的な傾向と同じと言えます。本校児童は、物語文を読んで人物像を想像したり、登場人物の心情を理解したりする力がついており、これは、協同的探究学習の中で、友だちの意見に耳を傾け自分と比較して考察を深める学習習慣の積み重ねの成果と言えます。今後は、読み取った内容や自分の考えを、的確にまとめ、適切に表現を使って書く力が求められるところです。漢字や文の構成という基本的な知識の定着に努めていくとともに、豊かな表現力をつけることを目指し、更なる読書活動の推進が必要です。ただ本を読むことにとどまらず、楽しみながら読書記録をつけたり、ブックトークをしたりして、読書後の情報整理にも力を入れていきます。今年度、本校の研究主題である「自ら探究できる児童を育成すること」を目指して、読書活動のみならず、さまざまな言語活動を行います。そして、国語の力を基盤とし、自分なりの考察をして表現する力を育てていきます。

算数科

算数科の学習では、基本的な計算や数量関係の理解については力の定着が見られたものの、知識や技能を活用して、複雑な問題の解法につなげることには課題が残りました。具体的には、基本的な計算問題や計算方法の工夫についての問題は正答率が高かったものの、それを応用して立体図形に関する問題を解くことに困難さがみられました。立方体に収まる球の直径と立方体の一辺の長さが等しいことをとらえることが難しく、それぞれの形のみの知識として断片的な理解にとどまっているといえます。また、グラフや表の値を読み取って関連付

け解に結び付けたり、活用したりすることに課題が残りました。これは、全国的な傾向と同じです。本校児童においては、実際の数値が与えられていないと、数量関係について大小の判断が難しいという特徴が表れました。道のりと速さ、時間の関係を考える「変化と関係」の問題については、論理的に説明する力が求められるところです。道のりが等しいとき、かかった時間を比べてどちらが速いかを判断するために、正確に3つの数量の意味と関係を把握しておく必要があります。生活の中で算数の知識を活用する習慣をつけることも大切です。

今後は、基礎的な学力の習得を更に充実させるとともに、仮の数値をあてはめて考えたり、概算で求めたり、実際の生活の中で使える算数活動を示したりして、解にたどりつくための工夫について指導していきます。数学的な正しい表現や考え方を伝え、他教科でも応用できるよう、教科を横断的に学習していきます。明確な根拠と適切な言葉を使って自分の考えを表現できるよう、指導を充実させていきます。

質問紙の結果より

時間通りに起床し、朝食をしっかりと食べてから登校するという基本的な生活習慣が身に付いている児童が約9割です。日によっては、登校後すぐに学習に集中することが難しいこともありますので、軽い運動などを取り入れるなど朝の学習の取組を見直していきます。健康に対する意識も高く、学校で学んだことを普段の生活に役立てている児童はほぼ100%に近い割合です。家庭で携帯電話やスマートフォン、パソコンなどを使ってSNSや動画視聴をする時間は30分以上1時間以内の児童が最も多く、4時間以上の児童は3%と少ない数です。保護者の方との約束を守り、ルールを守って使用している姿が想像できます。家庭学習については、平日1時間以上2時間未満の勉強をしている児童が約3割、1時間未満の児童は4割、2時間以上の児童は3割となりました。家庭学習の時間が1時間未満という児童の割合が少し増えたところが気になるところです。家庭学習の取組の方法について、きめ細かく指導していきます。

友だちに関しては、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」という問いに対しては99%、「人が困っているときは、進んで助けていますか。」という問いには93%の児童が「当てはまる」「どちらかという当てはある」と肯定的に答えていることから、友だちを大切に作る心が育っているとわかります。また、9割以上の児童が「学校に行くのは楽しい」と回答しており学校生活に満足している様子が見えます。自分や友だちを大切に、今後も楽しい学校生活が送れるよう授業内容や体験活動を充実させます。

学校での学習においては、タブレットを用いた学習が広く行われるようになりました。タブレットやICT機器を使うことで自分のペースで学習できると感じている児童が9割を超えました。本校では、わからないとき、調べたいものがあるとき、すぐにタブレットが手に取れる状態になっています。そのことが、児童にとって楽しく効率的に学習を進められる要因の一つとなっています。児童はタブレットを用いた学習の重要性を強く認識しています。主体的・対話的で深い学びにつながる授業スタイルが定着し、「授業や学校生活では、友だちや周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んだ」と感じている児童は97%でした。今後も、ICT機器を使用した協働的な学びをすすめてまいります。